

行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(インドネシア)

広域アジアものづくり技術・人材高度化研究センター 運営委員会 委員 菅哲男
接合科学研究所 客員教授

2019年度のインドネシア CIS (カップリング インターンシップ)が、インドネシアで11月24日-12月7日の期間に行われました。大阪大学の外国語学部2名、工学研究科2名、インドネシア大の人文学部2名と工学研究科1名の計7名の学生が参加しました。接合科学研究所の橋本特任講師が、CISの全工程を引率しました。

現地では2日間の事前研修をインドネシア大(デポック)で行い、日本企業の説明やコミュニケーションの研修、溶接基礎知識の教育、CIS実習テーマの検討などを実施しました。

11月27日からの休日を除く5日間は、セララにあるチレゴン・ファブリーケーターズ(PTCF)社で企業実習を実施しました。PTCFは、IHIの子会社であり、「発電用ボイラの製造メーカー」です。実習としては、会社説明(組織、業務内容)、溶接講習、品質管理・工程管理などの説明を受けると共に、工場見学(ボイラ・プラントの製造)や、PTCFの幹部やスタッフとの面談を行いました。又、12月5日には建設中のLontar

火力発電所(バンテン)も見学しました。学生は、実習テーマの「コミュニケーションの課題と対策」に関して、連日協議を重ねて、一生懸命に取り組みました。なお、病気のため学生1名の欠員がありましたが、全員が協力してテーマのとりまとめをしました。

最終日の12月6日にはインドネシア大で、学生は実習テーマの検討結果について発表しました。最終報告会には、インドネシア大学のBaiduri 部長(International Office)、Winarto 教授、PT.CFの吉田社長、斎藤シニアマネージャー、大阪大学の菅客員教授、橋本特任講師ら計18名の参加があり、活発な質疑応答が行われました。吉田社長からは、「興味ある提案が多く出ており、社内での活用を検討したい」とのコメントがありました。

学生は、「日系現地企業のものづくり現場」を体験すると共に、実習テーマを通して「コミュニケーション力や異文化理解」の重要性を習得しており、大変価値のある活動でした。

